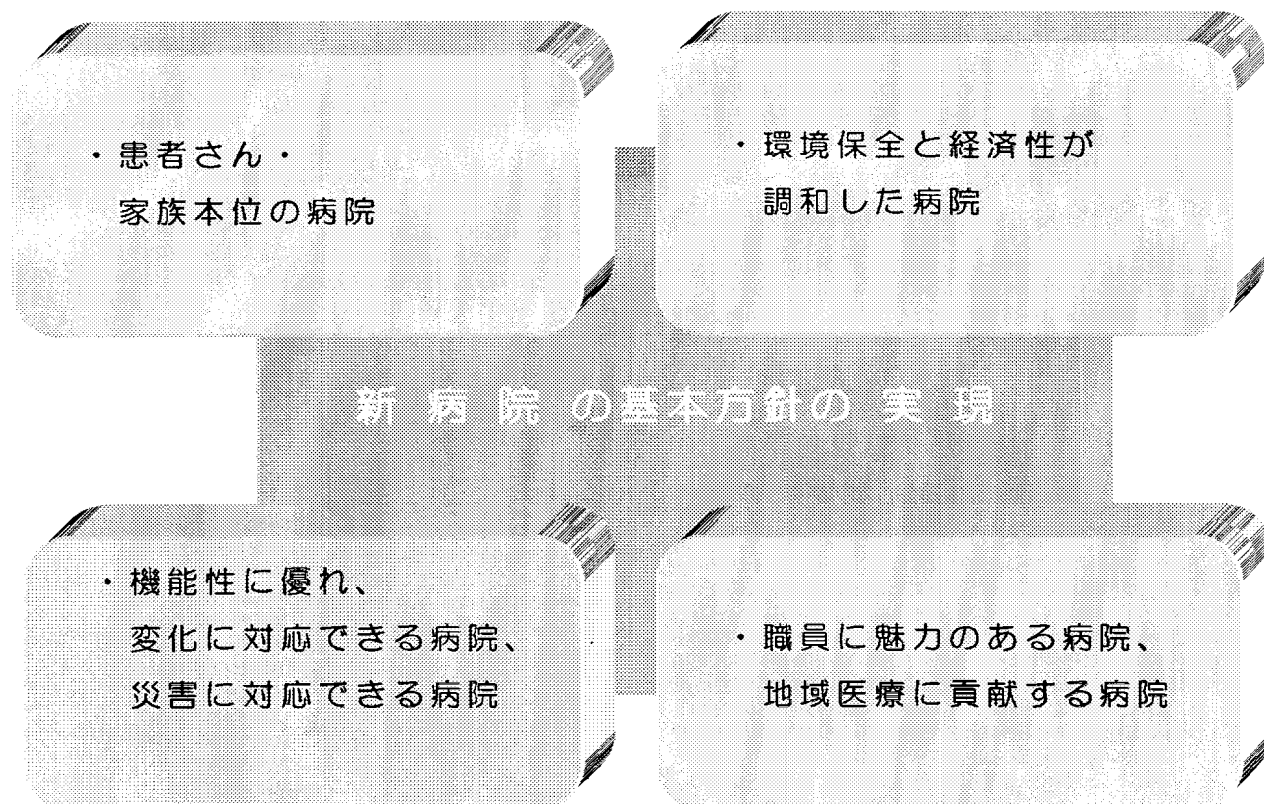


II 整備計画

1 施設整備の考え方

新病院はこの計画の基本方針を実現するために、「患者さん・家族本位」、「機能性に優れ、変化に対応できる、災害に対応できる」、「環境保全と経済性が調和した」及び「職員に魅力のある、地域医療に貢献する」病院づくりを行っていくことを考え方の柱として、施設・設備の整備を進めます。

施設整備については、将来の病院経営において借入金の償還が安定的・確実にできることを前提とし、限られた財源を有効に活用し最大限の効果をあげられるよう、医療機能を中心とした無駄のない効果的な施設整備を行います。



(1) 患者さん・家族本位の病院

① ユニバーサルデザイン等の導入

- ・患者さんだけでなく、患者さんの家族等、病院を訪れるすべての人にやさしい、安全で利用しやすいユニバーサルデザインやハンディキャップを有する方のバリア（障壁）に対するバリアフリーデザインの考え方を導入します。
- ・病院内の施設は患者さんの動線短縮のため、出来る限り集約した配置とするとともに、便利でわかりやすい案内表示板等の設置を行います。

② 開かれた病院づくり

- ・「健康応援図書室」を新たに設置し、患者さんや家族、一般市民に健康や病気について学ぶ機会を提供し、病状やその治療法・予防法について理解していただけるよう、医学資料等の情報提供を行います。
- ・入院及び外来患者に利用していただけるコンビニエンスストアもしくは売店、喫茶・レストラン等の利便施設を整備します。

③ 療養環境の向上

- ・外来・病棟とともに、患者さんや家族が日常生活の一部として気持ちよく過ごすことができる、療養環境に配慮した施設とします。

④ 新病院へのアクセス

- ・新病院建設予定地はJR阪和線津久野駅から南約370m（徒歩約6分）にあります。
- ・路線バス・ふれあいバス等による利便性の確保を行うため、関係機関等と協議を進めます。

(2) 機能性に優れ、変化に対応できる病院、災害に対応できる病院

① 部門連携の強化

- ・救急をはじめ各部門は効率的な連携が図れるよう、緊急度、利用度を優先した配置・動線を整備し、救急車で搬送される救急患者と一般外来の動線を区分します。

② 変化に対応できる病院

- ・将来の医療環境の変化などによる院内レイアウトの変更や、医療機器の導入・更新時などにも柔軟に対応できる構造の施設を整備します。
- ・将来の建替えや増築が可能な配置計画とします。

③ 災害に対応できる病院

- ・大規模災害時において、診療機能を維持できるよう耐震性能の保持や水・電気等のライフラインの機能を確保します。
- ・災害時のトリアージができるスペースの確保、医療資器材等の備蓄等、災害拠点病院としての基盤整備を行います。

(3) 環境保全と経済性が調和した病院

① 地球環境への配慮

- ・CO₂等による地球温暖化の問題に対処するため、太陽光発電システムの導入や電気・ガス等のエネルギー源の最適化に取り組みます。

② 閑静な周辺住環境との調和

- ・建設予定地周辺が閑静な住宅地であることから、緑化に努めるとともに建物のデザインや外装等については、周囲の景観に配慮したものとします。

③ 建設費・維持管理コストの低減

- ・施設整備については、無駄を省きかつ必要なものに投資を行い、最小のコストで最大の効果があげられるように、設計段階から建設費など初期投資費用（イニシャルコスト）と維持管理費用（ランニングコスト）を合わせたライフサイクルコストの視点で検討し、費用対効果を考慮した適切な整備手法の選択を行います。

（４） 職員に魅力のある病院、地域医療に貢献する病院

① 職員満足度の高い環境づくり

- ・各学会の研修機関としての認定の保持、新規取得が可能となるよう施設を充実します。
- ・病後児を含む保育施設、職員宿舎等の就労支援施設やアメニティの充実を行い、医師、看護師をはじめとした医療スタッフにとって継続して働き続けることのできる魅力ある病院づくりを行います。

② 地域医療に貢献する病院

- ・地域医療機関と連携して地域医療全体の質の向上を図るため、地域の開業医が利用できるオープン病床や共同使用ができる医療機器、研修施設・図書室等の必要な整備を行います。

2 配置計画

建設予定地は、敷地全体で見た場合、東西方向を長辺とする長方形に一部南西側に突起を有する形状で、丘陵地の西側斜面部分となっています。

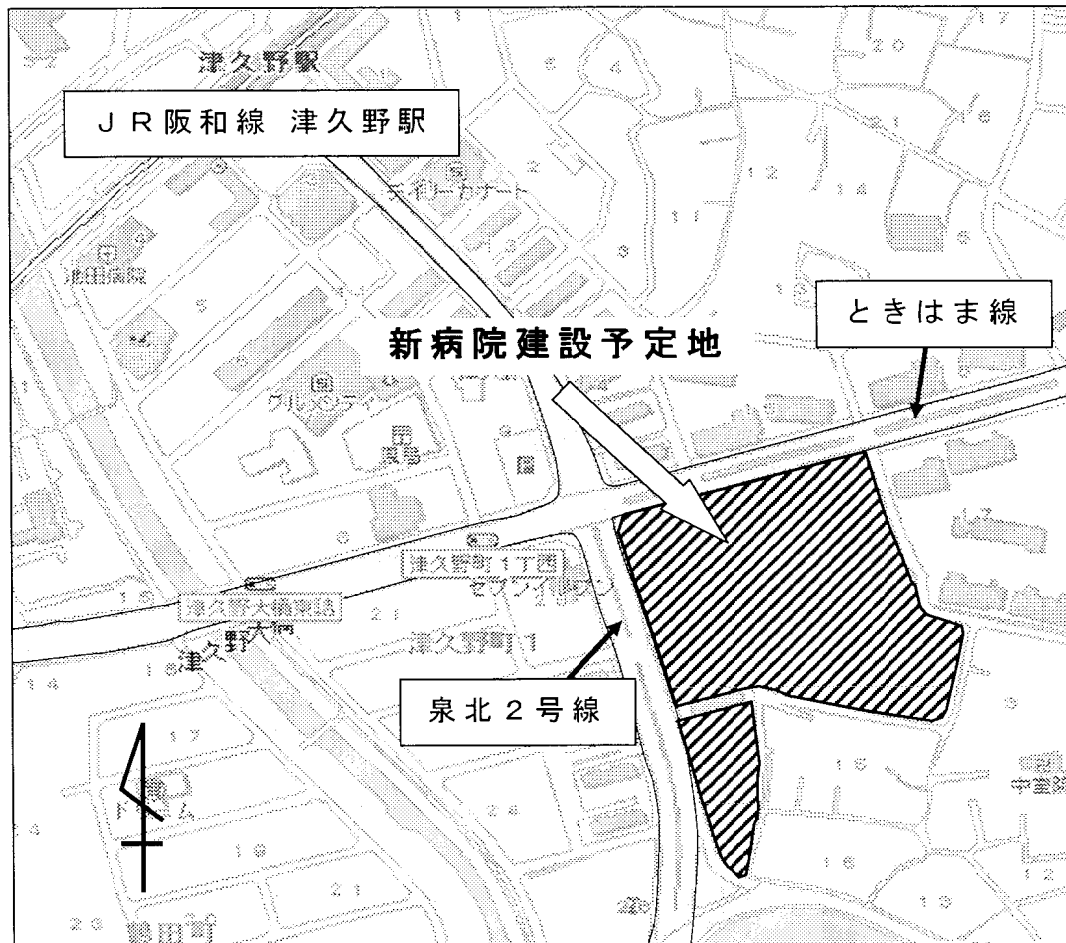
病院の各部門は有機的な連携が図れるよう病院全体のバランスを考慮した配置とするとともに、将来、敷地内での建替えや増築が可能な計画とします。

また、（財）堺市救急医療事業団が医師会・薬剤師会等の協力を得て運営する急病診療センターは、新病院と有機的に連携するため、敷地内の適切な位置に配置します。

一般用駐車場は、患者さん等が移動しやすいよう利便性と安全性を考慮した配置計画とします。

本敷地内への出入口は、今後、新設・拡幅整備を予定している外周道路を活用し、歩行者、一般車両、救急車等の通行が輻輳しないように配置します。また、来院者にとって出入口がわかりやすい配置とします。

既存住宅地側の外周部分については、歩道等を住宅地との緩衝帯として整備します。



住 所	堺市西区津久野町1丁目、家原寺町1丁目
敷地面積	・約24,000㎡

※ 建物配置等は、基本設計において確定します。

3 全体構成

(1) 部門の配置

① 病院本体は、低層部、中層部、高層部から構成

○ 低層部

- ・低層部には、受付機能を持つ部門、緊急性の高い部門及びその関連性の高い部門を優先し、救急部門及び救急ワークステーション、外来部門、放射線部門、臨床検査部門等を配置します。
- ・エントランスホールや外来待合等は、災害時に傷病者の受け入れとトリアージが可能な広さを確保し、医療ガス等の設備を備えます。

○ 中層部

- ・中層部には、中央手術部門、I C U部門、薬剤部門、管理運営部門等を配置します。
- ・I C U部門は、中央手術部門と近接して配置するとともに、救急部門との動線に配慮します。
- ・中央手術部門は、救命救急センターから直接エレベーターで結ぶものとします。
- ・総合医局、幹部諸室、会議室兼研修室、更衣室、仮眠室等を配置します。

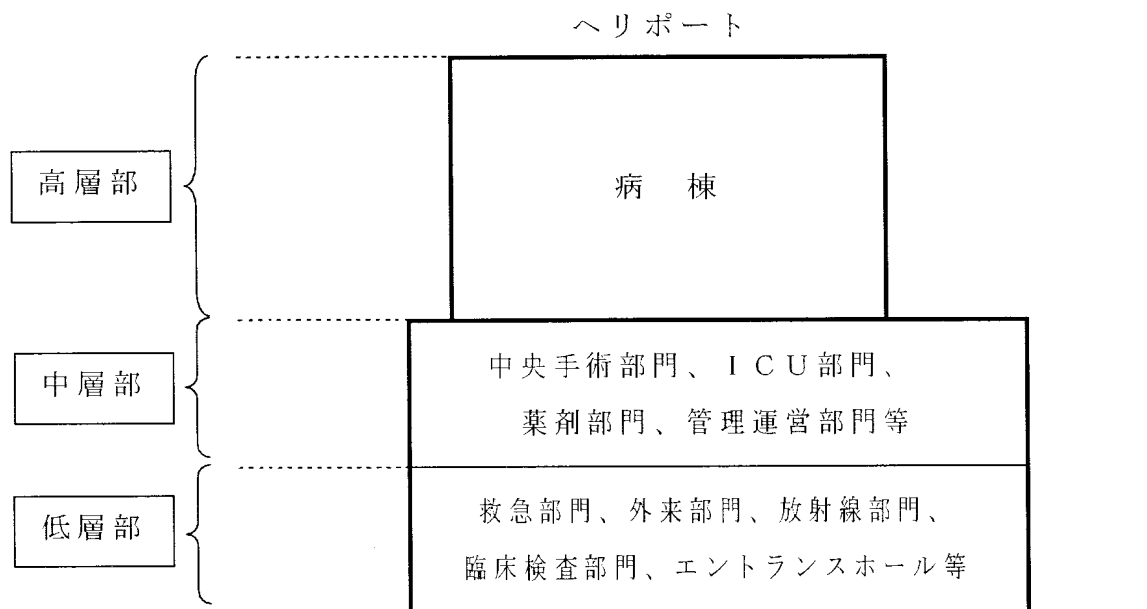
○ 高層部

- ・高層部については、病棟を配置し、各階の病床の診療科は関連性の高い組み合わせとします。
- ・病棟はスタッフと患者さんが交錯しないようエリアの適切な分離など、看護動線の確保や目的別エレベーターの活用により、効率的に看護が行える配置とします。

○ 屋上階

- ・屋上階にはドクターヘリ等の離発着が可能なヘリポートを設置し、広域救急体制の責務を果たします。
- ・ヘリポートからの救急患者の受け入れがスムーズにできるよう、屋上階と救命救急センター、中央手術室への動線を考慮したエレベーターを整備します。

《 断面イメージ図 》



※ 部門等の配置は、基本設計において確定します。

② その他

○ 駐車場

- ・外来・入院患者・見舞い客用等に必要な駐車台数を確保します。
- ・病院出入口との連絡が容易な配置とします。
- ・車いす専用駐車スペースを整備します。
- ・災害時にはトリアージを行うスペースとして活用します。

(2) 主要動線の確保

- ・ 利用者・用途別、清潔・不潔別の区分を行った複数のエレベーター及び搬送設備を設置し、的確な動線の確保を行うとともに物品搬送の効率化、迅速化を図ります。
- ・ 関連する部門同士の連携を重視して、各部門を配置します。

(3) 構造計画

① 耐震性能

- ・ 国の施設基準である「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」に準拠します。病院本体は耐震安全性の分類Ⅰ類とし、大地震後も構造体を補修することなく使用できるものを検討します。

② 構造方式

- ・ 病院建築については免震構造（基礎免震）方式を検討します。

(4) 設備関係

設備は、医療安全及び患者さんやスタッフにとって良好な環境を維持することを第一として、安定性、信頼性、経済性及び保守の容易性を基本として計画します。また、非常時、災害時において必要な機能が確保できる設備内容とします。

低炭素都市「クールシティ・堺」の実現のため太陽光発電や省エネルギー型の設備等を導入し、環境負荷の低減を図るとともに維持管理費を抑制するものとします。

なお、エネルギー供給施設は、医療技術等の変化に柔軟に対応できるよう、変更・拡張が可能な方式の導入を検討します。

① 電気設備

- ・ 病院各部門の需要に対して信頼性の高い電源を安全に供給することを目的として必要な設備を設けます。非常用発電機設備は、

信頼度の高い発電機を採用し、容量については、災害応急活動時の負荷に対応したものとします。

- ・環境保全と経済性の観点から省エネルギー・低コストで確実性の高い電気供給システムを導入することにより、CO₂排出削減やランニングコストの低減を図れるようにします。

② 空調設備

- ・中央手術部門、ICU部門等の清浄度の適切な設定や感染症病床等の病室の陰陽圧制御などの医療安全環境を確保することはもちろんのこと、病室の温度調節等が制御できる空調設備を整備し、患者さんにとって最適となる療養環境を保持します。

③ 給排水衛生設備

- ・給水設備における上水（飲用・医療用）は、上水道を利用します。その他の水源確保については、雨水貯水槽（樹木の散水用等）の設置を検討します。
- ・災害時の給水確保については給水管の耐震性を踏まえ、貯水槽により必要となる給水量を確保します。また地下水や雨水の利用を検討します。

④ 医療ガス設備

- ・医療ガス設備は、手術室、病室、処置室や災害時のトリアージスペースに設置します。

⑤ 情報関連設備

- ・電子カルテ・医事業務を含めた総合的な診療・医事システムの有効活用を図り、効率的な運用を行います。
- ・院外からの情報取得・伝達等については、個人情報保護やセキュリティを十分に考慮した設備とします。

- ・急速な進化をとげる医療情報・通信関連設備については、将来的に予測される拡張性を確保し、余裕を持った設計とします。

⑥ 防災・保安関連設備

- ・院内の電力、空調、衛生、防災設備の運転と保安の状態監視を行うため、中央監視設備を設置します。
- ・365日、24時間体制で救急患者を受け入れることから、防災センターは救急部門に隣接して設置し、時間外の入退出管理を一元的に行うとともに、防犯・機器監視設備等の整備とあわせ、院内全体の防災・保安を一元管理します。
- ・入退出等のセキュリティー関連設備として、必要な場所に監視カメラ等を設置するとともに、重要な部分について、ICカードやパスワードなどによる入退出システム等を設置します。

⑦ 昇降機設備

- ・エレベーターは、病院機能を支える重要な要素となることから、安全性、信頼性のある設備を検討します。また、外来、入院患者・見舞い客用、医療スタッフ用、ベッド用、食事・物品供給用、汚物回収用等の用途別に容量と機能を検討します。
- ・人や物品等の動線機能を重視した配置とします。

⑧ 搬送設備

- ・検体、薬剤、物品等の具体的な搬送頻度などを比較検討し、より効率的で低コストとなる搬送設備を検討します。